殺菌剤

バリダシン®液剤5

バリダマイシンA ……5.0%

種類名／バリダマイシン液剤
農林水産省登録／第17386号（住友化学登録）
毒性／普通物*
有効年限／5年
包装／500㎖×20

特　長

●バリダシンは、紋枯病防除剤で、兵庫県明石市の土壌から分離した放線菌（*Streptomyces hygroscopicus var. limoneus*）によって生産される抗生物質バリダマイシンを主成分としています。
●稲紋枯病をはじめとする、多くのリゾクトニア菌や、白絹病菌などの糸状菌（カビ）に対して優れた防除作用を発揮します。また、野菜・果樹の細菌性病害や稲「もみ枯細菌病」にも登録を取得しました。
●バリダマイシンは稲紋枯病菌や類縁の菌、並びに細菌に特有の酵素（トレハラーゼ）の活性を阻害し、菌体内に貯えられた糖トレハロースをエネルギー源としてのグルコースへの変換を抑制することによって、効果を発揮するというユニークな作用機構を示します。
●バリダマイシンを処理した植物体内では、抵抗性誘導に係る遺伝子の発現が観察されます。
一方、バリダマイシンは、トレハロースを利用しない細菌性病害にも防除効果を示すことから、植物に対し、全身獲得抵抗性を誘導することが示唆されております。

（稲紋枯病）
●バリダマイシンは紋枯病菌の菌糸の生育を停滞させ、さらに病原性を喪失させます。また菌糸の一部に薬剤が付着すると同一菌糸上全面に薬効が波及するなど、特異的な作用を示します。従って病勢進展阻止力が特に強く、効果の持続性にも優れ、多発条件下でも優れた効果を発揮します。

（キャベツ：株腐病、レタス・非結球レタス：すそ枯病など）
●リゾクトニア菌や白絹病の菌糸に直接作用して速やかに効果を現しますので、病原菌が活動を始めた初期の散布または灌注により優れた防除効果を発揮します。

（にら）
●リゾクトニア菌が起因し夏期株養成期に発生します。下葉の黄化症状が認められたら直ちに株全体に十分量散布します。また、高温多湿条件下で多発生するので、降雨後、直ちに散布します。散布した茎葉部は必ず刈り取り、その後伸長してくる茎葉部を収穫します。

細菌性病害

（ばれいしょ）
●生育期茎葉散布で、青枯病に登録を有する唯一の薬剤です。
初発前、病原細菌の密度が低い早めからの散布で、植物体内での青枯病菌の増殖を抑制し、発病・病勢の進展を遅延させ、収量の減少に歯止めをかけます。

（もも・すもも）
●体内の病原細菌が増殖する萌芽初期からの早めの散布で、より優れた防除効果を発揮します。
また、他剤とのローテーションによって菌量を低く抑えた中での散布も効果的です。

（かんきつ・うめ）
●体内の病原細菌数が少ない感染初期からの散布で、病原細菌の増殖を抑制して防除効果を発揮します。
また、他剤とのローテーション散布の一剤として、時期を選ばず散布可能です。

（キャベツ・はくさい・レタス・非結球レタス・にんにく）
●葉内の病原細菌が増殖する結球初期よりやや早めの散布で、より優れた防除効果を発揮します。

（たまねぎ）
●葉内の病原細菌量が増加する肥大期よりやや早めの散布で、より優れた防除効果を発揮します。

（だいず・えだまめ）
●葉内の病原細菌数が少ない感染初期からの散布で、病原細菌の増殖を抑制して防除効果を発揮します。
病原細菌は主に風雨によって葉に飛散し感染します。

適用病害と使用法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
もも	せん孔細菌病	500倍	200～700ℓ/10a	収穫7日前まで	4回	散布
すもも	黒斑病			収穫3日前まで		
かんきつ うめ	かいよう病			収穫7日前まで		
稲	紋枯病 疑似紋枯症 （赤色菌核病菌 褐色菌核病菌 褐色紋枯病菌） もみ枯細菌病	1000倍	60～150ℓ/10a	収穫14日前まで	本剤 5回 バリダマイシン剤 6回 ［育苗箱灌注は1回、本田では5回］	
	紋枯病	300倍	25ℓ/10a			
稲 （箱育苗）	苗立枯病 （白絹病菌 リゾクトニア菌）	1000倍	育苗箱 （30×60×3cm、使用土壌約5ℓ） 1箱当り希釈液500mℓ	は種時～発病初期	本剤 1回 バリダマイシン剤 6回 ［育苗箱灌注は1回、本田では5回］	灌注
ばれいしょ	黒あざ病	200倍	―	貯蔵前又は植付前	本剤 1回 バリダマイシン剤 7回 ［種いもへの処理は1回、植付後は6回］	瞬時～10分間種いも浸漬
			種いも100kg当り2.5～3ℓ			種いも散布
		10倍	種いも100kg当り200～300mℓ	植付前		
	青枯病 軟腐病	500倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	本剤 6回 バリダマイシン剤 7回 ［種いもへの処理は1回、植付後は6回］	散布
きゅうり	苗立枯病 （リゾクトニア菌）	800倍	3ℓ/m²	は種直後	1回	灌注
キャベツ	株腐病 黒腐病		100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回	散布
	軟腐病					
ブロッコリー	黒腐病 軟腐病			収穫前日まで	3回	
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	500倍		収穫3日前まで		
だいこん	軟腐病			収穫7日前まで	4回	
たまねぎ	腐敗病 軟腐病			収穫3日前まで	5回	
レタス	すそ枯病 腐敗病 軟腐病	800倍		収穫前日まで	3回	
非結球レタス				収穫3日前まで		

（つづく）

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
未成熟とうもろこし	紋枯病	1000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	3回	散布
しょうが		800倍		収穫14日前まで	4回	
みつば	立枯病			育苗期	本剤 1回 バリダマイシン剤 4回 ［育苗期は1回、移植後は3回］	
				移植後 但し、収穫7日前まで、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	本剤 3回 バリダマイシン剤 4回 ［育苗期は1回、移植後は3回］	
にんにく	春腐病			収穫3日前まで	5回	
ふき	白絹病		3ℓ/m^2	収穫7日前まで	本剤 5回 バリダマイシン剤 5回 ［種茎浸漬は1回］	灌注
			—	植付時	本剤 1回 バリダマイシン剤 5回 ［種茎浸漬は1回］	30分間種茎浸漬
ふき（ふきのとう）					本剤 1回 バリダマイシン剤 6回 ［種茎浸漬は1回、灌注は5回］	
			3ℓ/m^2	収穫30日前まで	本剤 5回 バリダマイシン剤 6回 ［種茎浸漬は1回、灌注は5回］	灌注
にら	葉腐病 白絹病		100～300ℓ/10a	刈揃え前まで	3回	散布
ねぎ	軟腐病	500倍		収穫前日まで	本剤 2回 バリダマイシン剤 3回 ［は種時の灌注は1回、散布及び株元散布は合計2回］	
	白絹病					株元散布
	苗立枯病（リゾクトニア菌）	400倍	6ℓ/m^2	は種時	本剤 1回 バリダマイシン剤 3回 ［は種時の灌注は1回、散布及び株元散布は合計2回］	灌注
てんさい			3～6ℓ/m^2	育苗中期	1回	
だいずえだまめ	葉焼病	500倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	3回	散布
はぼたん	黒腐病	800倍		発病初期	8回	
西洋芝（ベントグラス）	葉腐病（ブラウンパッチ）	1000倍	1ℓ/m^2			
		500倍	0.5～1ℓ/m^2			
日本芝	葉腐病（ラージパッチ）					

使用にあたって

■使用上の注意

- ボルドー液との混用はさけてください。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので注意してください。
- ばれいしょの青枯病に使用する場合、本病の多発する圃場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をしてください。
- ばれいしょの軟腐病に対しては効果が劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効です。
- うめ、かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効です。
- レタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意してください。
- だいこんの軟腐病が多発するような条件ではやや効果が劣る場合があるので、なるべく早めの散布をし、他剤との輪番使用をするとより有効です。
- ばれいしょの種いもに使用する場合は下記の注意を守ってください。
  ①切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行ってください。
  ②種いも散布の場合は、種いもを床などに拡げ、全体が均一にぬれるよう散布してください。
  ③処理した種いもはよく風乾してから植え付けてください。
- ふきおよびふき（ふきのとう）に使用する場合は、種茎浸漬処理と植え付け後の灌注を組み合わせて使用してください。
- 本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬　害

- トマト、きく（秀芳の力等）には薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布してください。

■安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。

- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
- 公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 処理した種いもは食料や動物飼料として用いないでください。

■貯蔵上の注意

- 密栓し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2024年7月25日現在の登録内容に基づいています。